

2007年6月7/8日

逸村裕・長谷川秀彦

出席については実習途中で連絡する。

A . RefWorks とは？

レポートや卒業研究では数百を超える文献リストの管理をしなくてはならない。この膨大なデータをすべて手作業で管理するのはたいへんな手間である。筑波大学は学生や研究者がこれらの文献情報を管理するために「RefWorks」を契約している。RefWorks を使えば文献リストの作成や管理を簡単に行うことができる。

B . RefWorks のアカウント作成とログイン

RefWorks を使うにはまず登録が必要である。

- 1 附属図書館ウェブサイトのトップ(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>)左上のメニューから「RefWorks」を選んでクリックする。
- 2 ログイン画面が表示されたら「個人購読を申し込む」をクリックし、必要な項目(名前、ログイン名、パスワード、メールアドレスを空欄に入力。ユーザータイプは「学部生」、関連分野は「そのほか」を選

択)を入力し、「登録する」をクリックする。

3 登録が成功すると、「おめでとうございます！」と書かれた使い方のページが開かれる。

4 登録したメールアドレスにログイン情報が届く。 注1

C.基本的な使い方

RefWorks を使って文献リストを作ってみよう。

データの取り込み

初めて使うときには、RefWorks には文献データが入っていない。まずはデータベースなどで探した文献のデータを取り込むことが必要になる。

例 (CiNii 使用) 『図書館雑誌』 vol.100, no.12 に掲載された、逸村裕の論文"「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」の背景と展開"を検索し、文献リストを作成する。

1. RefWorks にログインした状態で、別画面で CiNii(<http://ci.nii.ac.jp/cinii/servlet/CiNiiTop>)を立ち上げ、

「逸村裕」を検索。リストが画面に表示されたら

2. 右上の【→本文を読む・探す】の中から「S・F・X」をクリックする

3. 「S・F・X」画面から「Advanced」をクリックする。

4. 「References at RefWorks の右にある GO」をクリックする。

5. 新しいウィンドウが開き、しばらくすると

「インポートが完了しました-1件が取り込まれました」と表示される。

最近インポートしたレコードフォルダを閲覧するをクリックする

6. 「最近インポートされたレコード」として、取り込んだ書誌事項の表題、著者、ソース等が表示される。ここで上のタブから「フォルダ」をクリックする。

7. 「フォルダの新規作成」をする。半角英数文字で名前を付ける。たとえば“0706itsumura”。

8. フォルダがうまくできれば「フォルダ“xxxxx”の作成に成功しました」と出る。OKする。**注2**

9. 6の画面が再び表示される。必要なレコードIDのにチェックを入れる。

10. チェックを確認したら同じ画面で上のタブから「参考文献」をクリックする。

11. 「出力フォーマット」をドラッグするとたくさん出てくる。「SIST2」を選ぶ。

12「レコード一覧から生成」にチェックが入っていることを確認し、ファイル形式を「Word for Windows」、対象のレコードを「フォルダ内のレコード」として、8でつくったフォルダを選択する。「参考文献の生成」をクリックすると、文献リストが作られる。

13. 「1件のレコードから参考文献が生成されました」と表示が出る。

14. 生成された文献リストがSIST02に則ったものかどうか確認する。

現在のRefWorksは一部の書誌事項には不完全な対応しかできていない。クレーム中。足りない部分は自分で打ち込む。

D. 本日の課題

1. 日本語の雑誌記事 (CiNii を使用した課題)

以下の文献の書誌事項を CiNii で検索し、RefWorks にインポートした上で、(1)結果を SIST02-2003 出力する。(2)その結果足りない書誌事項や間違った書誌事項がある場合は補足して完全版にする (補足修正する点があれば空欄でよい)、(3)どこに欠陥があったか指摘する。(4)苦労した点やわからなかった点があれば記述する。

課題 1 『現代の図書館』 vol.42, no.1 に掲載された、土屋俊の論文「学術情報流通の最新の動向」

課題 2 2003 年に鈴木伸崇が発表した論文「部分木の移動を考慮した文書併合アルゴリズム」

課題 3 『Library and information science』 no.55 に掲載された種市淳子、逸村裕の論文「エンドユーザーの Web 探索行動:短期大学生の実験調査にもとづく情報評価モデルの構築」

2. 海外の雑誌記事 (LISA を使用した課題) 少し使い方が異なる応用編

以下の文献の書誌事項を LISA で検索し、RefWorks にインポートした上で、(1)結果を SIST02-2003 出力する。(2)その結果足りない書誌事項や間違った書誌事項がある場合は補足して完全版にする (補足修正する点があれば空欄でよい)、(3)どこに欠陥があったか指摘する。(4)苦労した点やわからなかった点があれば記述する。

課題4 『Library Review』の vol.53, no.1 に掲載された Karen Cloughley の論文『Digital reference services: how do the library-based services compare with the expert services?』

課題5 『Igaku Toshokan』に掲載された、Yasui Yumiko の論文「Digital reference services of university libraries in Japan」

課題6 (選択自由) 早くに終わったら「2007年5月17/18日 情報基礎実習 第5回 図書館と情報検索」の他の問題をやってみよう。また【C11 出力フォーマット】で他の書式もいろいろやってみよう。

E 課題提出

課題1-5(6余裕があればやってみる)の回答+今日の授業の感想と課題をやるのにかった時間(時間の長短は成績に影響しない)を記して提出。

課題結果の記述方法に工夫すること。(表にする・・・等)

締切：木曜日組は6月13日(水)正午；金曜日組は6月14日(木)正午

提出先 学務レポートボックス(実習の曜日に対応したボックスに！)

課題名：木曜日組は【情報基礎実習 0607】、金曜日組は【情報基礎実習 0608】

書式：A4いつもの通り

F その他の RefWorks の使い方

基本的な使い方以外にも、RefWorks には様々な使い方がある。例えば、ひとつの書誌レコードを複数のフォルダに入れることや、間違って重複して取り込んだレコードを自動で探すことなどもできる。

Word ファイルとしての出力のほか、RefWorks では HTML 形式、リッチテキスト形式など、参考文献リストのファイル形式をいくつか選ぶことができる。Mac ユーザ向けの機能もある。あらかじめ指定されたタグを文中に打ち込むことで、文献の引用注を自動的に文章の中に埋め込むこともできる。

詳細は RefWorks のマニュアルも必要に応じて参考にすること。日本語版のマニュアルは以下にある。<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/portal/RefWorksuserguide.pdf>

OPAC から取り込んだり、図書や電子情報源を扱うこともできる。これはまた来週。

注1 RefWorks のアカウントは複数に持つことができる。ログイン名とパスワードを統一認証(附属図書館ページでログインする際のもの) と同じにすると、附属図書館ページにログインしていれば RefWorks には自動的にログインできるようになる。

注2 取り込んだデータはメールなどと同じように、フォルダに分けて管理することができる。フォルダを複数作成して、使い分けることも可能。